

「主任介護支援専門員としての実践の振り返りと指導及び支援の実践」 における課題作成について

「主任介護支援専門員としての実践の振り返りと指導及び支援の実践」では、各自の指導・支援事例を用いて演習を行います。

第1日目、必ず課題をご持参ください。課題がない場合は演習が出来ませんのでご注意ください。

[留意事項]

1. 個人や各サービス事業所が特定されやすい情報は、符号化(順番に A・B・C など)し、個人情報の保護に十分ご注意ください。
2. 課題は、必ず本書式を用いて記載の上、各自コピー 6 部（グループ人数分+提出用）をご持参ください。（本書式は岡山県介護支援専門員協会ホームページ <http://www.gia-ocma.org/> からダウンロード可）
3. 指導・支援事例選定にあたり〔別紙〕をご確認の上、各自で課題を作成してください。

本書式内の「事例類型」は、厚生労働省が示した「介護支援専門員研修ガイドライン」の 8 類型の項目です。受講者は原則 8 類型のうち、1. 生活の継続および家族等を支える基本的なケアマネジメントを除く、7 類型全ての要素(キーワード)が含まれている指導・支援事例を用意する必要があります。

書式内「事例類型」の該当する番号に○をつけて必ず各自 2 事例以上の課題をご持参ください。

4. 演習の参考として「介護サービス計画書」（居宅サービス計画書、施設サービス計画書、認知症対応型共同生活介護計画書、介護予防サービス計画書等）を 1 部ご持参ください（6 部のコピーは不要です）。

その他、ご不明な点は下記までお問い合わせください。

一般社団法人

岡山県介護支援専門員協会

〒703-8258 岡山県岡山市中区西川原 255

おかやま西川原プラザ本館 3 階

T E L 086-953-4953

F A X 086-953-4954

メールアドレス web@gia-ocma.org

〔別紙〕

「介護支援専門員研修ガイドライン(令和5年4月)」「主任介護支援専門員更新研修」では、各自が担当している主任介護支援専門員としての実践事例を持ち寄り、演習を行うこととなっています。以下を課題提出の参考としてください。

なお、岡山県では「1. 生活の継続および家族等を支える基本的なケアマネジメント」事例に関しては、他の全ての実践事例に通じる内容のために、今回の提出事例からは除きます。

以下、2.～8.のケアマネジメント実践事例について、よく読んで**各自2事例以上の課題を持参してください。**

1. 生活の継続及び家族等を支える基本的なケアマネジメント(提出事例から除外)
2. 脳血管疾患のある方のケアマネジメント
脳梗塞、脳出血、くも膜下出血、脳挫傷、危険因子(高血圧、不整脈(心房細動)、糖尿病、過度な飲酒、肥満、喫煙)などのある方を含む。
3. 認知症のある方及び家族等を支えるケアマネジメント
アルツハイマー病、血管性認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭葉変性症、BPSD(行動心理症状・周辺症状)、軽度認知障害などのある方を含む。(医師の診断の有無は問わない)
4. 大腿骨頸部骨折のある方のケアマネジメント
大腿骨頸部骨折に限らず、他部位の骨折のある方の事例の他、圧迫骨折、変形性股関節症、変形性膝関節症等、再転倒や転倒骨折のリスクのある方を含む。
5. 心疾患のある方のケアマネジメント
心不全に限らず、虚血性心疾患(狭心症・心筋梗塞)、心臓弁膜症、不整脈、先天性心疾患、動脈・静脈疾患、大動脈瘤、大動脈解離、心筋症などのある方を含む。
6. 誤嚥性肺炎の予防のケアマネジメント
麻痺や加齢による摂食・嚥下障害(飲み込みにくい、むせる、咳き込む、とろみをつけるなど)や誤嚥性肺炎のリスクのある方を含む。
7. 看取り等における看護サービスの活用に関する事例
看取り「等」であるから、看取りにかかわらず看護サービスを導入している事例である。訪問看護、ターミナルケース(末期がん・難病・慢性疾患等)、医療管理(中心静脈栄養・経鼻・胃瘻・カテーテル・在宅酸素・気管カニューレ・人工呼吸器・褥瘡等)などのある方を含む。
8. 家族等への支援の視点や社会資源の活用に向けた関係機関との連携が必要な事例のケアマネジメント
介護保険以外の他法制度(生活保護、成年後見制度、日常生活自立支援事業、障害者総合支援法、難病施策、虐待、生活困窮等)や地域の社会資源(インフォーマルサポート等)の活用が必要な事例を含む。

以上、受講者は原則7類型全ての要素(キーワード)が含まれている指導・支援事例を用意する必要がありますが、例えば下記の「例1」のように、2. 脳血管疾患がある方で、3. 認知症、4. 転倒等による骨折等の既往歴、6. 誤嚥の防止のキーワードが含まれる事例というように、2つの事例に7類型全ての要素(キーワード)が含まれていれば、指導・支援事例は2事例の提出で構いません。

◆指導・支援事例作成の例

・例1

2. 脳血管疾患
3. 認知症
4. 大腿骨頸部骨折
6. 誤嚥性肺炎

5. 心疾患
7. 看取り等看護
8. 社会資源活用

左記の例1、例2などの場合は
2事例の課題提出で可。

(※2事例以上、提出して頂いても構いません。)

なお、2.～8.の組み合わせに指定はありません。

・例2

5. 心疾患
7. 看取り等看護

2. 脳血管疾患
3. 認知症
4. 大腿骨頸部骨折
6. 誤嚥性肺炎
8. 社会資源活用